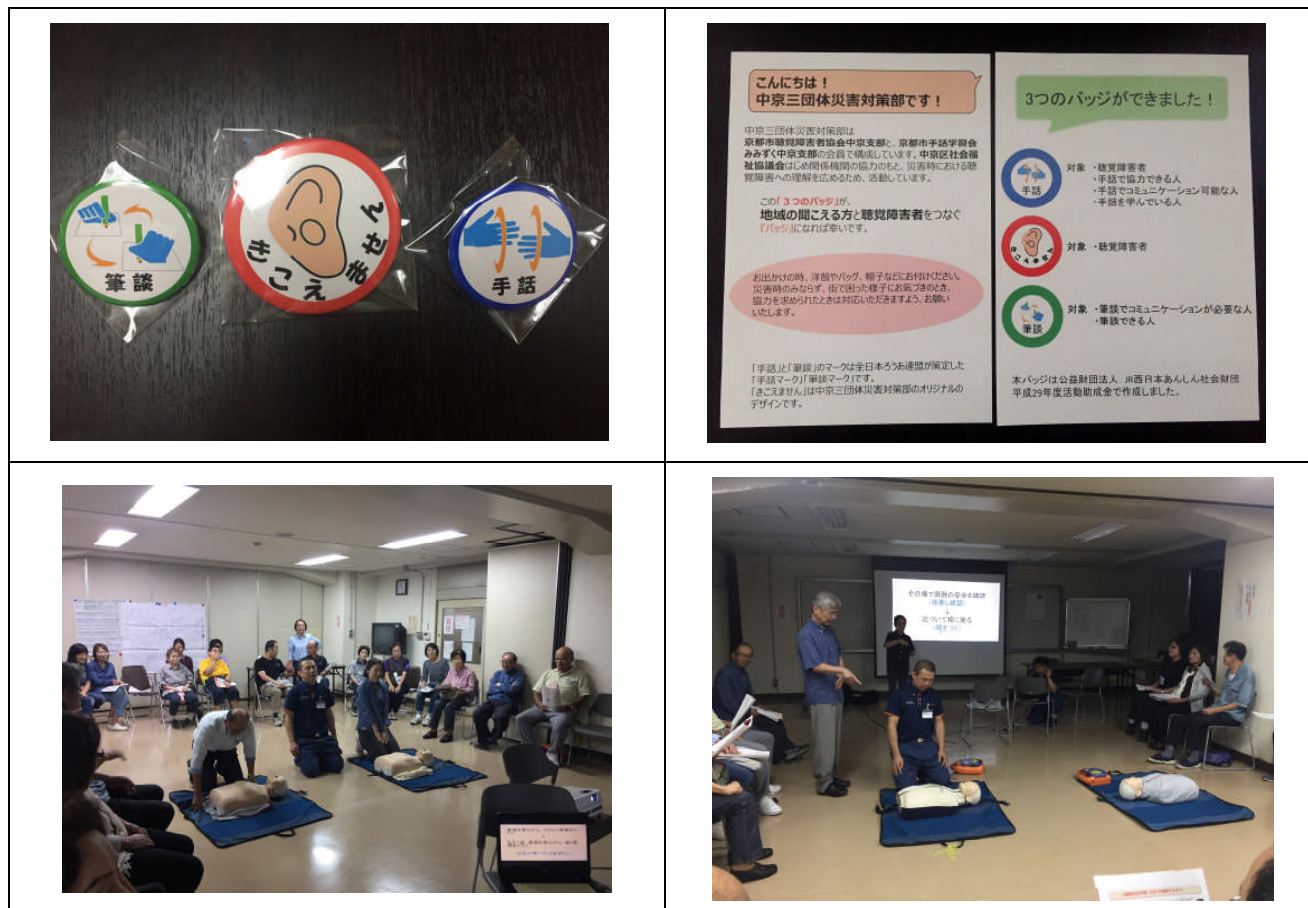


平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	京都市聴覚障害者協会中京支部
活動テーマ	・ 缶バッジの作成 配布、啓発活動 ・ 災害時における聴覚障害者への支援体制の整備を目的とする



平成 23 年の東日本大震災を機に災害時における聴覚障害者への支援体制を整備する必要性を認識し、京都市聴覚障害者協会中京支部と京都市手話学習会「みみずく」中京支部によって中京三団体災害対策部を立ち上げました。

「目に見えない聴覚障害への理解・協力を得る為の啓発」のきっかけとして、肢体障害者の利用する車いすや視覚障害者の白杖のように、だれもが一目見て聴覚障害者であることを認識するために、日常的に身に着けることができる缶バッジの作成、配布、啓発を行うこととなりました。

バッジは服、帽子、カバンなど、どこにでもつけられるようにクリップ付きのバッジを採用しました。日常生活で各自の身に付けやすいところに着用することで、聴覚障害者は、災害時周囲に自身の障害の発信と、支援を求められることができるようになり、みみずく会員は、自身が聴覚障害への理解があること、「手話」や「筆談」で支援をする意思があるということを発信できるようになりました。バッジ完成後は京都市聴覚障害者協会中京支部会員、みみずく会員へ配布し、バッジの目的について説明しました。また、区内の手話教室や防災訓練の場にバッジを着用して積極的に参加しています。民生委員の学習会へも出向き、地域に根差した支援活動をされている民生委員の方にバッジの存在や、目的を広めることができたことの意義は大きいと思います。

災害対策部が主催する年 2 回の災害学習会では、東日本大震災の支援に行かれた方のお話をうかがったり、救急救命訓練を実施し、自分たちにできること、学びをさらに深めています。